明年から国保全員七割給付に

しかしむやみな受診は増税のもとにも

＜乱診はさけましょう＞

国民健康保険の給付割合（町で負担する割合＝保険者負担分）は、世帯主は医療費の七割で、世帯員については五割となっています。

国では、世帯員にも七割給付を実施しようと、三十九年度から四カ年計画を進めていますが、光町は来年一月一日から開始することになりました。

七割給付は、皆さん方が医療費の三割をお医者さんに支払えばよいということです。この、皆さんが負担する部分を一部負担金といいます。

しかし、三割の一部負担金で済むようになるからといって、安易な気持でむやみにお医者さんに診てもらったり、診察もせずに薬だけもらうなどといったことは、医療費が天井しらずに増える原因にもなり、つまりは皆さん方が納める国民健康保険税にも大きな影響を及ぼします。

このようなことをふせぐには、昔だんから自分の体に注意し、住民検診やがん検診などの集団検診を利用して初期のうちに病気を発見、治療することが大切です。

乱診は保険税の増税の原因になります。

＜保険証の切り替え＞

世帯員の七割給付を始めるため、保険証を切り替え、十二月二十日ごろから年内一杯に新らしい保険証をお渡しすることになります。ふるい保険証と引きかえになりますので注意下さい。

＜お医者さんにかかるとき＞

県内には全員七割給付になる市町村とそうでないところがあります。そこで、お医者さんにかかるとき、保険証を持参しないと混らして一部負担金を五割納めてしまい、被保険者の皆さんが損をすることにもなりかねません。

どんなこんいなお医者さんに診てもらうときでも、必らず保険証を提示して下さい。

また、お医者さんに保険証をあずけっぱなしにしておくことがないようにしましょう。

上手にかけましょう

有線放送電話

皆さんご存じのように今では有線放送電話は私達の日常生活に欠くことのできない存在となってきました。

毎朝午前五時五十五分にスピーカーから軽音楽のリズムに乗って「只今から今日の放送を開始します」というアナンスの声が町の隅から隅まで流れてから夜は午後九時（冬は八時）の「これで今日の放送を終ります。どなたも明日放送開始の時間までご気嫌よう」まで一日の運用時間十五時間余りを天気予報、ニュース、お知らせ、電話連絡とこのような番組によって六名の交換手が交代制で業務に従事しております。

少しでも早く、親切、丁寧に取次ぐよう心掛けております。しかしながら本部から遠い日吉、白浜などでは感度がわるいためご迷惑のことと存じております。

今日は加入者の皆さんに「有線放送電話のかけ方」について係からお願いを申し上げます。

先づ放送開始後時間直後と終了直前はどなたも待ってる関係で、大変混雑いたします。現在の交換台は二台で（一台十二本のコードによって）二名の交換手がこれをさばいているわけです。町内の加入者約千七百戸から呼出しの信号があっても同時に通話のできるのは二十四戸ということになり、それ以外の方には待って貰わなければなりません。

そこでお互に一寸ゆずり合って（急ぎの場合は別ですが）できましたらピークを避けていただければ、皆さんがスムースに通話ができるのではないかと考えます。

それからなるべく時候の挨拶や要件以外の話を簡略すれば次の方の通話が容易にできると、このように思います。

皆さんから愛され親しまれる有線放送電話にしたいとこれからもより一層の努力をいたします。

人命救助で表彰

海水浴場での蔭の人々

海を訪れた人でにぎわった本戸海岸もいまは人かげもありません。

年ごとにふえている海水浴客が、たのしい一日をすごしていく蔭に、水難や犯罪防止に苦心されている方々のご苦労を見のがすことはできません。

七月にあやうくおぼれそうになった人を無事すくった尾垂の伊藤明夫さんを始め関の宮本義宜さん、椎名徳治郎さん、白浜駐在所の市原巡査、シーズン中つねに水難と犯罪をふせがれた消防団第七分団第三部の働きはめざましく、特に伊藤さんは人命救助の功労で県警本部長からの表彰状をおくられました。

また他の方々は八日市場警察署長の感謝状を受けられています。

十月十二日の伝達では、町長も、自からの危険をもかえりみず人の生命をたすけられたこれらの方々に深い感謝を表しました。

＜表彰された方々＞

（写真は光町の最高令者伊藤よし（93）さん）

いつまでもお元気で

九月十五日　敬老行事行なわる

ながいあいだ社会に尽くしてこられたお年寄りを敬まい長寿を祝う敬老の日が、今年から、法律で九月十五日に決められ、祝日として誕生しました。

光町でも、今まで十月十五日に行なってきたこの日を、九月十五日に改め、各地区でお年寄の家庭をおとずれています。

また九月十五日現在で調べた町の高令者は七〇才以上の方は男二九六人、女三八〇才が男一五人、女一人計二八六人、八八才が男二人、女五人計七人、八九才以上は男二人、女四人計六人となっています。

天候にもめぐまれた各会場は、早朝からつめかけた七〇才以上のお年寄りと付添いの人で一杯。訪れた町長や町議会議長などの町の関係者、社会福祉協議会長からお祝のことばと記念の品々を受けました。

社福役員や婦人会のもてなしや演芸に楽しい一日を過ごされたご老人が、これからも益々お元気で長寿を保たれますようお祈りいたします。

なお十三日に、県知事と町からのお祝品をたずさえた町長が、八十八才以上のお年寄の家庭をおとずれています。

家畜も大切な財産

畜舎の清掃を

最近家畜の飼育規模が多頭、集団化の傾向になるにしたがってその病気も地域的に被害を受ける様になって来ました。特に豚丹毒の発生で大きな被害を受けこの面からも畜舎の舎の消毒、清潔が非常に大切なものになります。農繁期の忙がしさでつい畜舎の管理がおろそかになりがちです。ちょっとの油断が大事になります。家畜は皆さんの大切な財産ですから常に細かな注意をしてよりよい収益を上げましょう。

血液はいのちの綱

献血は自分のため、人のため

（献血はなぜ必要か）

最近とみにふえた交通事故や、進歩した手術の際の輸血は、現在一番切実な問題となっています。

職業的な売血者の血液による輸血は、おそろしい血清肝炎の原因でもあり「黄色い血液」とさわがれ、社会問題としてクローズアップされたのもほんの数年前でした。

この黄色い血液＝血清肝炎を解決するには、健康できれいな血液をもった方々の、人類愛と人道の精神にたった献血によるほかはありません。

（献血とはなにか）

献血は、人類愛、相互扶助の精神から、血液を無償で傷病者に提供することです。

もちろん献血した人が輸血を必要とする場合にも、優先的に必要な輸血を受けることができます。つまり献血は、自分のためでもあり人の生命を救うことでもあるのです。

（九月二十六日の献血での受付風景）

九月二十六日に行なった、光町での第一回の献血には、町内事業所のみなさん、一般町民の方々など八十二名が協力されました。

（だれがいつ、輸血を必要になるかも知れない）

前にものべたように、交通事故での大ケガや、大手術では必らず輸血がともないますし、これらの大ケガ、大手術はいつ、だれが、どこでおこるかわかりません。このために献血は機会をのがさずに行ないたいものです。

献血に必要な血液は一回二〇〇CCで、普通の体格の人なら全血液の二〇分の一～二五分の一にしかあたらず、毎月採血してもほとんど体への影響はないといわれます。

（光町では）

第一回の献血運動につづいて全町にこの事業をすすめる予定です。一人でも多くの方がこの運動に参加しようではありませんか。

原付自転車にも強制保険

――十月一日から――

さきの法改正で十月一日から原動機付自転車も、責任保険に加入しなくては運転ができなくなりました。原動機付自転車をお持ちの方は、早急に手続を済ませて下さい。保険金は、年間二、五四〇円で各保険会社と農協で扱っています。保険をかけますと、保険会社から、保険証明書と保険標章が交付され、原動機付自転車にはこの保険証明書を備え付けなければならず、保険標章を表示しなければバイクの運転もできません。

くわしいことは、最寄りの農協か、損害保険をとりあつかっている保険会社の代理店等でおたずねください。

米の予約売渡し

九月で一〇〇%突破

九月末日までの産米予約売渡し期限までに千二百余戸の生産農家から五万三千余俵が出荷される盛況で売渡し実績は早くも一〇〇%を突破、殆んどの農家が予約の責任を果されホッとした表情につつまれている。

41年度産米政府予約売渡状況

地区名	予約目標数量	予約数量A	売渡数量B	指数 A/B	農家戸数
日吉	17,185俵	17,497俵	17,589俵	101 %	365 戸
南条	12,235	14,140	14,194	100	264
陽東	11,125	14,041	14,310	101	386
浜白	4,855	6,264	7,046	112	229
合計	45,400	51,942	53,139	102	1,244

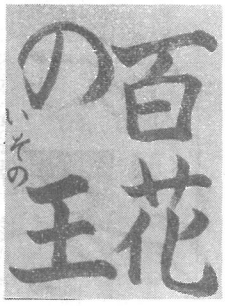
宮古島の被害へ義援金

台風十八号で、宮古島は建物の九〇パーセントがたおれるという大きな被害をこうむり、島民は大きなショックを受けています。この気の毒な災害を救おうと、議会開会中であった町議員は六、六〇〇円の募金を行ない、役場職員一同から集まった一〇、一五〇円を併せて日本赤十字社に寄託した。

編集後記

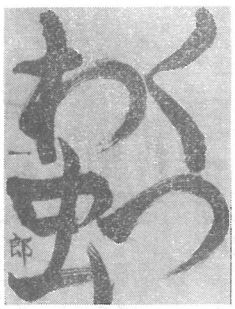
空の色もきわだって濃くなり秋の深さが増してきた。制定された体育の日にさきがけ一五、〇〇〇平方メートルの運動場を埋めつくして行われた町の体育祭は天地の自然にも恵まれた。町民一体となってこの遠大な国結の力が町づくりにひろげられ発展することが感じ取られた。

よい子の作品



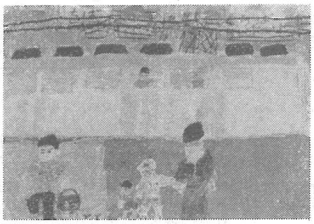
百花の王

東陽小四年　磯野幸子



わくわく

東陽小三年　椎名一郎



「駅」東陽小三年　石橋　十三

「先生」東陽小四年　越川　敦子